

札幌なにかができる経済人ネットワーク
代表 越智文雄 様

「札幌なにかができる経済人ネットワーク」設立20周年記念第193回特別例会講演会のご開催を心よりお祝い申し上げます。

代表の越智文雄様をはじめ、2006年6月の設立以来、官民の垣根を越えた多様なネットワークを築き上げ、地域活性化に尽力されてきた会員の皆様の情熱と歩みに、深く敬意を表します。

急速に変革する国際情勢の中、本日は佐藤正久先生をお迎えし、我が国の進むべき路を展望する極めて有意義な好機と存じます。「なにかができる」という力強い志のもと、貴会が次の時代へ向けてさらに大きく飛躍されますこと、また越智代表をはじめ、本日ご集いの皆様の益々のご健勝とご多幸を祈念いたします。

2026年6月26日
財務大臣 金融担当大臣
参議院議員 片山さつき

▲片山さつき財務大臣から寄せられた祝電

は北方領土だけでなく、北海道・東北までほしかった。かつての極東艦隊、今のロシア海軍太平洋艦隊が太平洋に出ようとすると、津軽海峡を自由に通れるから。中国が太平洋に出る時も邪魔なのが鹿児島、沖縄、台湾の



▲佐藤氏が話した「一隅を照らす光が集まれば、その光は国全体をも照らすことになる」という意味。天台宗開祖・最澄の言葉だそう

は「日本を守れない」ということである。

防衛大臣政務官のほか、参議院外交防衛委員長・自民党幹事長代理、国防部会長・外交部会長・国防議員連盟事務局長などを歴任した。



▲越智文雄氏

講師の依頼は引く手あまたの様子。各種総会シーズンである6月は特に多く、24回という。冒頭に「議員でもないのに何でそんなに多いの、と嫁に

現在は東京都新宿区に本社を置くグローバル防衛研究所(株)チーフフェローとして多様な活動をしており、こうした

怒られる。家庭内戦闘地域は継続中」と話し、会場を笑いに包んだ。

防衛力の強化だけでは足りず求められる本気の覚悟

話題は、時節柄やはり外交・安全保障に関する内容が中心。まず「大陸から日本列島はどう見えるか」と特別発注で作った地図を活用し「我々は邪魔だと思われる場所に住んでいる。第二次世界大戦が終わった時、ソ連

ライン」と分かりやすく説明した。

佐藤氏は「日本の安全保障が、いま根本から揺らいでいる」を時論としている。6月の政策レポートでは中東危機、ウクライナ戦争、中国の脅威を総じて「これらは地続きの危機であり、すべて日本の存立に直結する課題。もはや防衛力の強化だけでは足りない。エネルギー確保、サイバー戦への備え、そして揺るぎない同盟国との連携、これらを総合的に推し進める『本気の覚悟』が求められる」と記している。

そして話題はホルムズ海峡の緊迫について。「ホルムズと皆さんの財布、会社の経営はつながっている。日本は資源に乏しく、材料や部品は外国から買わなければならない。それを入れる割合は99・6%が海から。航空貨物はたったの0・4%に過ぎない」として「日本は一定程度の汗をかくべき。これだけホルムズ海峡に依存しているのに、安全なところにいて成果を得るのは許されない。後で『あの時、おまえやらなかっただろ、と言われたら終わり』。台湾あたりで緊張性が高まった時に日本の経済は止まる」と熱弁をふるった。

越智文雄あかりみらい社長が主宰する「札幌なにかができる経済人ネットワーク」は6月26日、設立20周年記念の特別例

会講演会をカナモトホールで開いた。このネットワークは文字通り、「地域のために何かをした」という熱い気持ちを



▲中東危機などについて熱く語った佐藤正久氏

参議院議員3期務め6月講演は実に24回

「札幌なにかができる経済人ネットワーク」は行政や大学、シンクタンク、金融機関、メディア、そして芸術家や建築家、中小企業経営者など官民の垣根を越えるメンバーで



▲特別発注で作った地図(上)や日本までの航路を用いて分かりやすく説明した

「札幌なにかができる経済人ネットワーク」設立20周年記念特別例会講演会
ビゲの隊長と佐藤正久氏が熱弁
日本は一定程度の汗をかくべき

持った有志が集まる会で、定期的に実施する講演会や勉強会は実に193回目。今回、講師となった「ビゲの隊長」こと、佐藤正久前参議院議員は講演後、参加者との写真撮影に気軽に応じていた。

が特徴の一つ。佐藤氏を迎えたこの日の講演会も「オープン例会」として通常に増して広い会場で開催した。

佐藤氏は福島県出身。

防衛大学卒業後、約25年間、陸上自衛官として勤務。国連PKO・高原派遣輸送隊初代隊長、イラク先遣隊長・復興業務支援隊初代隊長、第7普通科連隊長兼て福知山駐屯地司令などを務めた。その後、参議院議員を3期務め、外務副大臣、